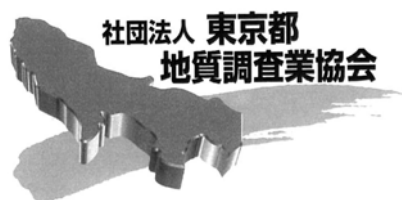


# 東地協ニュース 2009.11 第17号



## 東地協の役割

監 事 倉 持 知 二

今年の5月より監事に就任してから6ヶ月。この間に通常総会、理事会に出席させていただきました。

東地協の事業内容については平成14年頃まで総務委員を務めておりましたので概要は把握しているつもりですが、何分不慣れなため、協会関係者の方々にご迷惑をかけることもあると思いますが、よろしくお願いいたします。

私が委員を務めておりました平成14年頃、会員数は約50社以上と記憶していますが、現在は会員も減少し、その減少がくい止められない状況です。これは申すまでもなく、不況のあおりと政権交代による公共事業の見直し、価格競争の激化等が会社経営を厳しいものになっているからです。

しかし、この厳しい環境下にあっても、着実に業績を伸ばしている企業が存在することも事実です。ということは、時代になかった戦略があるということの証に他なりません。従来の既成概念にとらわれず、新しい視点で根本から事業を見直し、会社を立て直さなければなりません。

そのためには協会員のチームワーク(技術力の連携等)を強化し、知恵を絞って新たな取り組みをすることが必要になってくるでしょう。

また、「協会活動」で一番に重要なことは消費者等をはじめとする社会の「信頼」を獲得することです。

そのためには、コンプライアンス活動に積極的に取り組むことが不可欠です。姿勢、方針を対外的に明らかにし、透明性の高い協会活動を行っていくことが非常に重要でしょう。

私も、今後積極的に協会活動に参加し、少しでも協会発展のために力を尽くしたいと思います。

## ● 会議報告等

### ○ 第 23 回通常総会(決算と事業報告)

去る 5 月 21 日(木)、測量地質健保会館 7 階大会議室において第 23 回通常総会が開催された。当日は会員数 31 社に対し、28 社が出席(うち委任状提出 6 社)。議事の概要は以下の通り。全議案が承認された。

- (1) 平成 20 年度事業報告承認の件
- (2) 平成 20 年度収支決算承認の件
- (3) 平成 21 年度事業計画(案)変更承認の件
- (4) 平成 21 年度収支予算(案)変更承認の件

※ (1)～(4)について、異議無く承認された。

- (5) 役員の一部改選の件

監事の小野寺靖氏の辞任に伴う役員の補充について、議長より出席会員へ議長一任を取り付け、以下の方が就任された。(任期：平成 22 年 3 月 31 日)

監 事    倉 持 知 二 氏

(株式会社 建設地盤    代表取締役)

- (6) 役員定数変更の件 (再議案)

第 22 回通常総会(平成 21 年 3 月 18 日開催)において、定款変更に係る第 4 号議案の承認を頂いたが、定款変更は「総会において正会員 4 分の 3 以上の議決を経て、主務官庁の承認を得る」必要があるため、第 22 回通常総会(正会員数 35 社、出席 26 社)ではその基準に達しておらず、このたび再議案とした。

[変更事項]

- ① 理事の定数について

13 人以上 17 人以内 → 8 人以上 13 人以内

- ② 副会長の人数枠について

2 人 → 1 人から 2 人以内

※ 出席会員より同意を得て、承認可決された。

また、総会終了後、金道副会長より法令遵守の社会的使命について説明があった。

※ 総会前には、(独)国立環境研究所 客員研究員 陶野郁雄氏より「地下開発に伴う環境問題」についてご講演いただいた。



<陶野先生ご講演風景>



<第 23 回通常総会風景>



<懇親会風景>

## ○ 理 事 会

### 1. 21年5月21日 理 事 会

- (1) 第23回通常総会の進行について
- (2) 技術ニュースNo. 76(関東協会)の執筆依頼について
  - ・東京都協会活動紹介
  - ・東京都の事業紹介
- (3) 「平成21年度東京都予算等についての要望」への  
東京都議会自由民主党からの回答について
- (4) 総務委員会関係
  - 1) 東地協ニュース17号について
- (5) 広報委員会関係
  - 1) 墨田区「すみだ地域学セミナー」への協力の件  
「墨田区の地形と地質」講演会  
日時：平成21年7月4日(土)  
場所：すみだリバーサイドホール  
講師：若松 加寿江 氏(関東学院大学教授)  
対象：墨田区在住・在勤の方(150名)
- (6) 技術委員会関係
  - 1) 技術委員の21年度担当部会割り当てについて

### 2. 21年7月7日 理 事 会

- (1) 会員の退会について  
関東地質(株) (6月末日付)  
㈱マスダ技建 (6月末日付)
- (2) 平成21年度防災展について
- (3) 総務委員会関係
  - 1) 東地協ニュースNo. 17について
- (4) 広報委員会関係
  - 1) 墨田区「すみだ地域学セミナー」報告
  - 2) 上期広報PR活動について
  - 3) 全地連小冊子の購入について(PR資料用)
- (5) 技術委員会関係
  - 1) 技術ノートNo. 42「東京の下町」の発行予定の件
  - 2) 地質見学会について(10月14日開催)
  - 3) ボーリングマシン運転の安全衛生教育について
  - 4) 外部対応マニュアルについて

- 5) 第2回土壌・地下水汚染調査実務者講習会 報告
- 6) 分析機関見学会について(10月23日開催)
- (6) 暑中広告について(建通新聞社)
- (7) 地盤調査委託標準仕様書(東京都港湾局)の改定について
- (8) 収支報告(4月, 5月, 6月)
- (9) 受注動向調査について → 当分の間、休止する。
- (10) 全地連・地域活性化委員会について
- (11) 全地連理事会の関連資料について
- (12) 東京都港湾局の実務研修会について(7月21日)

### 3. 21年9月8日 理 事 会

- (1) 平成21年度上期事業・収支見込について
- (2) 防災協定(東京都)について
- (3) 総務委員会関係
  - 1) 東地協ニュースNo. 17について
- (4) 広報委員会関係
  - 1) PR活動の配布物について
- (5) 技術委員会関係
  - 1) 技術ノートNo. 42について
  - 2) 地盤調査委託標準仕様書改定について
- (6) 平成21年度防災展 報告
- (7) 予算ヒアリングについて(都議会自民党, 民主党)
- (8) 平成21年度東京都CALS/EC推進協議会について
- (9) 技術ノート販売について  
第44回地盤工学会研究発表会において、技術ノートのPR販売を行った。(8月18日~20日)  
担当：西原技術委員長  
協力：若松理事, 金道副会長,  
㈱地盤試験所・岡様(前 協会技術委員)
- (10) 公益法人制度改革アンケートについて



## ☆ トピックス(協会行事紹介)

### ◎ 会員向け土壌地下水汚染技術実務者講習会(7月3日)

東京協会会員企業の皆様におかれましては、土壌・地下水汚染に係る調査・対策業務に日々勤しんでおられることかと存じます。

土壌汚染対策法（以下「法」という）が施行されて5年が経過しました。「法」や自治体条例の適用を受ける場合はもちろんのこと、土地取引や資産価値の評価、あるいは企業の環境監査等を契機とする自主的な環境調査の取り組みとして、土壌・地下水汚染調査を実施する機会は増えてきました。

土壌・地下水汚染に係る調査・対策業務は、「法」に規定される調査方法に加え、関連する環境法令や条例要綱・地質・土木・化学物質等に対する幅広い知識が必要となり、業務の際にはしっかりとした調査・対策を計画立案して実施することが必要です。そこで昨年に引き続き、土壌・地下水汚染の調査・対策を実施するための基礎知識を学んで頂くことを目的として、調査・対策に携わっている方、またはこれから携わろうとする現場実務者を対象とした講習会を開催しました。

講習会は、『第2回 使える土壌・地下水汚染調査実務の基礎知識』と題し、7月3日（金）豊島区西池袋の測量地質健保会館において開催しました。

講習内容は、午前に「土壌地下水汚染の一般的知識」として関係法令、調査手法、ケーススタディ等の基礎的かつ実践的な内容について講習し、午後は昨年同様に「地質調査技士試験 土壌・地下水汚染部門」の過去の問題から重要項目を抽出し、セクションごとに担当者がQ&A方式で解説しました。昨年は午後の方の講習でしたが、今回は1日の講習とし、より充実した内容になるよう配慮致しました。

本講習会の参加者は会員企業12社20名でした。参加者の皆様には終始熱心に受講して頂き、運営にあたってトラブル等もなく盛況のうちに終了することができました。

また、本講習会参加者を対象にアンケートを実施した結果、「大変参考になった」「事例をとりまぜながらの説明で、理解しやすかった」「同僚等に参加を促す」といった肯定的な意見が多く、参加者皆様の好評を得ることができたと思います。さらに、2010年4月1日に改正土壌汚染対策法が施行されるにあたり、法改正に関連した同様の講習会の開催を要望する声も聞かれ、今後の土壌・地下水汚染調査・対策の動向に関心が高まっていることを感じることができました。

今後も会員皆様のご要望やご意見を取り入れながら、より一層充実した講習会を開催したいと環境部会一同考えております。これまでご参加いただけなかった方や、再度受講したいと思われる方も含め、次回のご参加をお待ちしております。

なお、本講習会では参加して頂いた皆様にCPD認証6.0ポイントを付与しました。

#### 『第2回 使える土壌・地下水汚染調査実務の基礎知識』 ＜当日のスケジュール＞

| 時間               |             | 講習内容                    |
|------------------|-------------|-------------------------|
| 午<br>前<br>の<br>部 | 9:20～9:40   | 受 付                     |
|                  | 9:40～9:50   | 開会の辞、注意事項               |
|                  | 9:50～10:30  | 土壌地下水汚染の一般知識1（法律等）      |
|                  | 10:30～11:10 | 土壌地下水汚染の一般知識2（調査方法等）    |
|                  | 11:10～11:20 | 休 憩                     |
|                  | 11:20～12:00 | 土壌地下水汚染の一般知識3（ケーススタディ等） |
| 12:00～13:00      |             | 昼 食                     |
| 午<br>後<br>の<br>部 | 13:00～13:40 | A. 社会一般・環境行政等           |
|                  | 13:40～14:20 | B. 地質・土木・化学等            |
|                  | 14:20～15:00 | C. 現場技術                 |
|                  | 15:00～15:10 | 休 憩                     |
|                  | 15:10～15:50 | D. 地盤解析・修復技術            |
|                  | 15:50～16:30 | E. 管理技法                 |
|                  | 16:30～16:50 | 質疑応答                    |
|                  | 16:50～17:00 | 閉会の辞                    |

(技術委員 樋口 靖)



## ◎ 墨田区講演会「墨田区の地形と地質」

「すみだ地域学セミナー」に協力 (7月4日)

平成 21 年 7 月 4 日(土)、墨田区主催「すみだ地域学セミナー」の一部として『墨田の地形と地質』講演会が、すみだリバーサイドホールにて開催されました。このセミナーは区内在住在勤の方を対象として、平成 24 年春に予定されている新タワーのオープンに向け、国内外から墨田区を訪れる方々を“おもてなしの心”でお迎えするため、すみだの地域を学ぶ機会として 19 年度より開催されています。他の日程には、『すみだの地域文化の継承と創成』『墨田区の町名の由来』『梅若伝説～中世の物語の世界～』『すみだの埋蔵文化財』『江戸を活かそう「すみだ」の町づくり～忠臣蔵・北斎・海舟～』『森鷗外と向島』をテーマに講演会が企画されていました。

当協会が協力をした『墨田の地形と地質』講演会では、関東学院大学工学部社会環境システム学科教授で当協会の理事をされています若松加寿江先生に、お忙しい中無理を言って講師をお願い致しました。



若松先生  
ご講演風景

ご講演の内容は、墨田区の地形・地質概要に始まり、低地の地盤条件をその生い立ち(堆積した環境)の説明を交えてわかりやすくお話して下さいました。そして今後東京近辺で想定される地震やその被害について、関東大震災、阪神淡路大震災や新潟県中越沖地震での実例を挙げてご説明いただきました。

聴講者は約 150 名で、皆さん向学心にあふれ、熱心に若松先生のお話を聴かれていたのが印象的でした。



(広報委員長 中込 実敏)

## ◎ 東京都港湾局研修会 (7月21日)

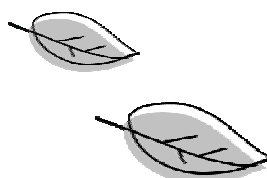
7月21日、東京港建設務所3階大会議室(品川区)にて「港湾局土木技術職員として必要な地盤及び地質調査、液状化対策の専門技術、及び、港湾計画策定に係る基礎知識を習得し、職務遂行能力の向上を図る。」目的で東京都港湾局が、土木技術職員・その他受講を希望する職員(40人)を対象として実務研修を行った。



技術委員会としては研修の一部として「東京の地盤と地質調査」と題し13時より15時30分まで技術委員会・西原委員長他3名で講師を務めた。

各講師の話に港湾整備部 奥平幸男技術管理課長をはじめ熱心に聞き入り、専門的な質問に講師の面々が丁寧に返答していた。

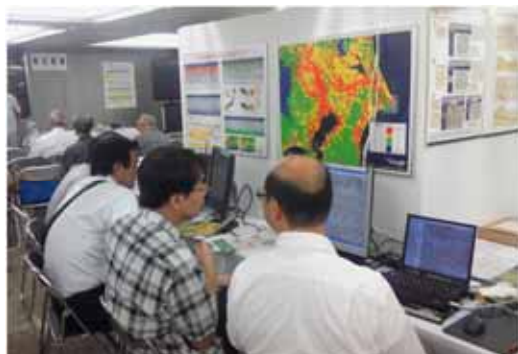
(技術副委員長 菊地 大郎)



## ◎ 平成 21 年度防災展 (8 月 18 日～21 日)

東京都主催の防災展「目の前にある危機に備えて できることから取り組もう」が 8 月 18 日から 21 日に新宿駅西口広場イベントコーナーで行われた。昨年より 1 日長い日程であった。

協会では「宅地の地盤検索」のコーナーをはじめ、パネル、液状化実験装置、洪水ハザードマップの展示及び防災講演を行った。



今年はやや少ない訪問者であったが、「宅地の地盤検索」のコーナーは訪れた方の御自宅の地盤を技術員がわかりやすく親切に説明し、土地条件図も持ち帰れることから例年通り人気であった。説明担当者は真摯に対応された。

防災講演では「地形から自然災害を予測する」山崎晴雄先生、「サイエンスショー：液状化現象の科学実験」納口恭明先生、「地震災害への備え（平野部の場合）」今村遼平先生、「造成盛土宅地の耐震性」安田進先生が日時を変えて講師を務められ多くの方が聴視された。

今年は東京都職員による「新型インフルエンザ：感染予防の基礎知識」の講演も行われ、「目の前にある危機に備えて できることから取り組もう」をスローガンとした、多様性を持った危機管理、防災意識向上にむけた防災展イベントで訪れた方々の関心を引いた。



(技術副委員長 菊地 大郎)

## ◎ 東京都 2009 地質見学会 (10 月 14 日)

10 月 14 日に「多摩丘陵の上総層群とそれに含まれるテフラ」と題し東京都 2009 地質見学会(第 2 回)を実施した。案内者は首都大学東京・鈴木毅彦教授で、立川駅集合後、京王バスにて多摩川河川敷、都立長山公園、首都大学で昼食講義、穴澤神社拝殿裏を見学した。その後、首都大学に戻り学生食堂にて懇親会を行った。



西原委員長他 4 名の講演部会委員と、早田会長をはじめ 27 名が参加した。やや雲が多く心配された天気であったが雨にも降られず、多摩川の現河床に露頭するテフラを観察したり、鈴木先生の丁寧な説明を熱心に聞き入っていた。昨年にも増して若い技術者の参加が多く、真剣に鈴木先生へ質問する姿が印象深かった。懇親会も 26 名参加され鈴木先生を囲んで和やかな雰囲気になっていった。

(技術副委員長 菊地 大郎)



## ◎ 第5回分析機関見学会 (10月23日)

10月23日(金)、㈱環境管理センター分析基礎研究所様(八王子市)において、「土壌環境を取り巻く最近の話題と分析機関見学」という題で、座学および施設見学会を開催いたしました。

今回の募集人数は15名を予定しておりましたが、好評により、定員を上回る会員企業9社18名の参加がありました。

今回で5回目となる分析機関の見学会ですが、㈱環境管理センター様のご協力により、単に分析施設の見学をさせていただくということではなく、公定法分析や計量証明書の発行手続き、土壌迅速分析(ボルタンメトリー法)のご説明や実演に加え、業務に必要な最近の話題も多数ご用意していただきました。内容として、改正土壌汚染対策法の概要や自然的原因が疑われる指定基準超過の場合に、それを確認するための化合物形態や同位体比を用いた確認手法、土壌に係る最近のトピックス(埋設アスベスト、蛇紋岩由来のアスベストの判定法)等の話題を織り交ぜた内容での開催を行うことができました。

前半は、いま述べました講義、休憩を挟んで土壌迅速分析法(ボルタンメトリー法)の実演をしていただきました。その後、2班に分かれて施設内の見学となりました。分析中のため、基本的には分析室内には立ち入ることはできませんが、パネルや窓から見える範囲内で、各担当者の方が親切、丁寧な説明があり、参加者からも多くの質問等が出ました。



見学会にご協力いただいた環境管理センター様は分析機関としていち早く ISO/IEC 17025 の認定を取得されるなど、他の分析機関に先んじた精度管理に対する厳格な姿勢を強く感じられました。

最後に㈱環境管理センター分析基礎研究所のご担当者様にあたっては、大変お忙しいところ、この見学会のために準備、対応していただいたこと、心より感謝の意を表させていただきたいと思います。

これからも会員企業の方々の要望や意見を取り入れ、充実した見学会を開催していきたいと考えておりますので、次回のご参加をお待ちいたしております。

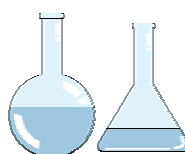
なお、この見学会においては、CPD ポイントが3ポイント付与されました。

### 「土壌環境を取り巻く最近の話題と分析機関見学」

#### <当日のスケジュール>

| 時 間         | 内 容                                                        |
|-------------|------------------------------------------------------------|
| 13:30       | 集 合                                                        |
| 13:30~13:45 | 事務連絡、㈱環境管理センターの会社説明                                        |
| 13:45~14:00 | 改正土壌汚染対策法                                                  |
| 14:00~14:30 | 土壌分析の説明・計量証明書の発行手続                                         |
| 14:30~14:50 | 自然的原因による指定基準の超過と確認分析                                       |
| 14:50~15:10 | 土壌に係る最近のトピックス<br>(埋設アスベスト、蛇紋岩由来のアスベスト)                     |
| 15:10~15:20 | 休 憩                                                        |
| 15:20~15:50 | 土壌迅速分析(ボルタンメトリー)の実演                                        |
| 15:50~16:20 | 土壌分析施設の見学<br>①溶出液の作成<br>②第一種特定有害物質<br>③第二種特定有害物質<br>④アスベスト |
| 16:20~16:30 | 質疑応答・事務連絡                                                  |

(技術委員 杉原 勝利)





## ◎ 都議会予算ヒアリングに参加して

都議会予算ヒアリング（都議会自由民主党・民主党）が平成 21 年 9 月 9 日、10 日の両日開かれました（昨年は自由民主党のみに参加）。予算ヒアリングには内部理事 6 名（会長・副会長・総務委員長・広報委員長・技術委員長・監査役）が出席し資料に基づいて説明致しました。今回は下記の 2 点に絞って要望致しました。

### 要 望 事 項

#### 1. 世界に誇れる災害に強い都市東京を実現できるよう 地震災害、浸水災害、斜面災害等の防災対策事業予算の継続的確保について

地球温暖化の影響と思われる時間雨量 50mm を超えるような局所的集中豪雨や地震のマスコミ報道を見ていると、大都市東京も何時災害に見舞われてもおかしくない状況にあるのではないかと不安な思いに捕われます。

今夏 8/18～8/21 に新宿西口で開催された都主催「防災展」では多くの市民が当協会展示ブースを熱心に見学され、一般市民の防災意識の高まりを感じました。市民の皆様の生命と財産を守るため、一般住宅（特に古い木造住宅）の耐震診断や学校・病院など公共施設、高速道路、河岸・海岸護岸など社会的インフラ構造物の耐震対策（耐震設計・耐震補強など）が重要であります。最近の局地的異常豪雨による浸水対策としては、ハード面とソフト面での充実が望まれます。さらに日頃の構造物維持管理（メンテナンス）を継続的に実行し、万一被災した場合にも被害を最小限に止めることが必要ではないでしょうか。

重点的災害対策項目をまとめますと

- I 地震で倒壊しないための家屋の耐震診断・耐震補強、  
地震に強い道路、橋梁等のインフラ整備と日頃の  
維持管理（メンテナンス）

- II 23 区を含む浸水災害、斜面災害対策の強化・推進
- III 臨海地区の地盤の液状化対策など・・・

#### 2. 会員企業の活用ならびに社会貢献活動に対する適切な評価について

地質調査業は戦後に設立された企業が多いため、産業としての歴史は比較的浅く市場規模もそれほど大きくはありません。地質調査業の民間機関としての調査技術の確立や向上ならびに産業としての地位確立は「社団法人 全国地質調査業協会連合会」及びその傘下の「地区地質調査業協会」が極めて大きな役割を担ってきました。また公共の福祉のため社会貢献活動にも地道に取り組んで参りました（例えば都防災展への協力支援、防災講演会の開催ならびに講師派遣、都立高校全校への「技術ノート」の無償配布など）。

地震・浸水・斜面災害等に関する対策事業は、地形・地質状況が密接に関係しております。これらの事業計画策定においてトータルコスト縮減のためにも**地盤・地下水・防災に関する調査・設計業務に精通している当協会の専門業者のノウハウを積極的に活用していただきたい**。当協会は現在**正会員数が 29 社と激減**しており社会貢献活動を行っていくためには協会の確保・増強が必要であります。当協会会員による**社会貢献活動が適正に評価され、発注機関の業者選定において協会会員である企業への何らかの側面的援助**を考慮していただきたい。

以上

（会長 早田 守廣）





## ＊ 会員コーナー

### 散々な一日に大規模災害時の光景を垣間見た

去る 10 月 8 日、"上陸時の勢力は過去 10 年で最強クラス"と言われる台風 18 号 (アジア名: メーロー、マレーシアの言葉でジャスミンの意) が朝の首都圏を直撃した。JR 在来線のほぼ全線と一部の私鉄が 3 時間近くにわたってストップし、出勤難民はなんと 450 万人に及んだとのこと。

斯く言う私もこの中の 1 人として「2 つのトラブル」に巻き込まれた。

1 つ目は、自宅から会社までの通常ルート。

早起きしてテレビニュースの気象情報をチェックし、いつもより 30 分早く自宅を出発。

最寄りの東武東上線ふじみ野駅から 1 つ目の乗換駅である川越駅へ。JR 川越線は間引き運転の事前情報通り、定刻を 22 分遅れで大宮駅に向けて出発した。

「これで大丈夫かな」、と思ったのが大間違い。1 駅目の南古谷駅に到着するなり、「荒川橋梁で風速 25m 以上を記録した」、との車内アナウンスが入り、風が弱まるまで運転見合せとなった。その後、他の JR 各線の不通情報が続々と車内アナウンスされたため、午前 9 時 30 分頃に電車を下り、駅の改札を出た。

駅前広場は次の手を考える人々で溢れ、東武東上線の上福岡駅への振替アクセス用バスやタクシー待ちの長蛇の列が既に出来上がっていた。

元来、列に並ぶのが苦手な田舎育ちであるため、暫く思索して「自助」を選択。妻に電話し、自宅から車で迎えに来てもらうよう要請し、一旦帰宅に成功。

会社へ向かうことを諦め、午後に訪問を予定していた都内へ向かうべく再度ふじみ野駅まで徒歩で向かい、再び同様な光景を目撃することに。

なんと、今度は東上線が不通。民家の屋根が強風で飛ばされ架線に掛かったとのこと。

なすすべなく、自宅まで引き返し、運転再開を待つことに。結局、ふじみ野駅から動く電車に乗れたのは午後になってからであった。これが 2 つ目。

だが、これで終わらないのが運の悪いとき。

夕方のラッシュ時、都内からダイヤ乱れの残る上野駅を発ち、「大好きな会社」のある土呂まで戻る。急ぎの対応のみ片付けて会社を出たのが夜の 10 時過ぎ。

乗換の大宮駅埼京線ホームに、満員の川越行きが滑り込んできた。

いつもは閑散としている時間帯の電車だが、「きっと台風の影響で出社が遅れたため、残業して仕事を片付ける人が多かったのだろう。なんて日本人は真面目なのだ」、と思いつつ電車に乗り込む。結局、川越駅まで座ることなくドアにもたれ掛かって 20 分程電車に揺られ終点の川越駅に到着した。

そこで目に飛び込んできたのは駅のコンコースに溢れかえった人、人、人。

東武東上線が、今度は踏切事故のため、その時点で 4 時間以上も不通になっていたのだ。

JR 線の川越行きが混んでいたのは、池袋からの振替輸送のためであった。それにしても、途中でこの不通の情報は一切目にしなかったのは不思議である。

東上線の川越駅では駅員が詰め寄る客に涙を流しながら頭を下げ、あちらこちらで罵声も飛んでいる。自由通路はバス・タクシーを待つ長蛇の列と、JR 線が到着する度にどんどん人が増えていく危険な状態にあったため、ここでも自助を選択。「家まで歩くとするか」。

川越駅を出て川越街道まで出てみるとびっくり。その光景は、「大規模災害時」のそれとほぼ同様になるであろう、両側に大勢の歩く人達。車道は上下線とも大渋滞。時間は夜 12 時間際である。

歩きながら色々なことを考えた。「きっと地震のときは路面変状、落橋、倒壊した家屋、さらには火災による火の手があちらこちらに見える、そんな状況なのだろう」と。また、気象状況も真夏の日中や冬の夜で降雨時などとはとても歩いてなんていられないだろうと思うと、来るべき大災害時に如何にして対応するか、常日頃からシミュレーションして準備おくことは大変重要なことであると思わされた。

途中、空車のサインを灯したタクシーを「歯を食いしばって」数台やり過ごし、7.2 km 離れた自宅に着いたのは夜中の 12 時半を少し回った頃であった。

2 つの台風渦と 3 つ目のトラブルで、散々な一日であったが、何れも貴重な経験となった。

自宅に着いた後には 1 時間以上歩ききったという「変な達成感」で興奮し、なかなか眠りにつけないのであった。

総務委員会・委員の同僚



## ■ 会員(正会員・賛助会員)動静

### (1) 会員の退会

- ・ 関東地質(株)
- ・ (株)マスタ技建

### (2) 代表者の変更

- ・ (株)日さく 東京営業所  
代表者) [新] 東京営業所長 菊 池 賢 一 氏  
[旧] 東京営業所長 高 橋 健 二 氏
- ・ (株)東建ジオテック 東京支店  
代表者) [新] 東京支店長 越 智 勝 行 氏  
[旧] 東京支店長 海 谷 叔 伸 氏

### (3) 住所の変更

- ・ 協和地下開発(株)  
〒101-0032 千代田区岩本町 2-12-7  
TEL 及び FAX は変更ございません。
- ・ テクノインターナショナル(株)  
〒168-0074 杉並区上高井戸 1-24-20  
TEL : 03-5357-8100 FAX : 03-5357-8101
- ・ (株)ジオフィール  
〒124-0006 東京都葛飾区堀切 3-36-3  
TEL : 03-5671-0700 FAX : 03-5671-0702

住所、代表者、会社名等の変更がございましたら、  
お手数ですが協会事務局までご連絡をお願い致します。  
(協会事務局 TEL 03-3252-2963)

## ・ 編集後記 ・

政権交代によって政府の建設投資が大幅に削減され  
そうです。当協会の会員数は、いま29社にまで減ってし  
まいました。

結果の是非にかかわらず不確定の世界へ乗り出さざ  
るを得ない時が来ているようです。

とはいえ、地質調査業そのものが雲散霧消してしまう  
わけではありません。

後進の地位向上のためにも、やがて来る再起の時のた  
めにも、私達会員企業は、地道な社会貢献活動を続けて  
いくべきだと思います。少し速度を落として。

(金道)



## 東地協ニュース 2009.11 第17号

発行・編集 (社)東京都地質調査業協会

〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-6-8 (内神田クレストビル)

TEL 03-3252-2963 FAX 03-3252-2971

<http://www.tokyo-geo.or.jp/> E-Mail [info@tokyo-geo.or.jp](mailto:info@tokyo-geo.or.jp)

